

高野山大学創立百十周年記念 高野山大学論文集（抜刷）

平成8年9月30日

『完成せるヨーガの環』第11章
「ヴァジュラフーンカーラ・マ
ンダラ」訳およびテキスト

森 雅 秀

『完成せるヨーガの環』第11章 「ヴァジュラフーンカーラ・マ ンダラ」訳およびテキスト

森 雅 秀

I. 和 訳

凡 例

- ① 本稿はアバヤーカーラグプタ Abhayākara Gupta 著『完成せるヨーガの環』(Niṣpannayogāvalī) 第11章「ヴァジュラフーンカーラ・マンダラ」(Vajrahūm-kāramaṇḍala) のサンスクリット・テキストの和訳である。
- ② 和訳は Bhattacharyya による校訂本(1972)と、現存するサンスクリット写本18本を用いて校訂したテキストにもとづく。各写本の該当箇所は以下の通り。
B:23a, 5-25a, 2; C:30b, 1-32b, 6; D:26b, 5-29a, 1; E:22b, 6-24b, 4; F:14a, 6-15a, 8; G:20a, 5-22a, 2; H:23a, 1-24b, 4; I:30b, 2-33a, 1; K:20b, 1-21b, 6; L:19a, 3-21a, 5; M:26b, 2-28b, 3; N:27a, 6-29a, 6; O:29a, 2-31a, 1; R:30b, 2-33a, 3; T:24a, 4-26a, 3; V:28b, 4-30b, 5; W:39a, 4-42b, 4; X:32b, 2-35a, 2。
各写本の略号および主要なデータは森(1994)を参照されたい。⁽¹⁾
- ③ チベット訳テキストは北京版(P), デルゲ版(D), ナルタン版(N)の3版を用いて校訂したテキストによる。デルゲ版は高野山大学図書館, ナルタン版はインド省図書館(Oriental and India Office Collections, London)所蔵の版本をそれぞれ使用した。後掲のチベット訳テキスト中の()内の数字は北京版の頁, 葉の開始箇所を示す。また北京版にのみ含まれる Śākyaśrībhadrā による異訳(P2)も参照した。各版本の該当箇所は以下の通り。P:TTP, Vol.80, 133.4.4-134.2.3; D:phu 109b, 4-110b, 7; N:thu 126a, 3-127b, 1; P2:TTP, Vol.87, 55.5.5-56.3.7。各版本のデータも森(1994)参照。
- ④ NPY に対する注釈書としてパンチェン一世の『ヴァジュラヴァリーの四十二種の大マンダラ成就法<宝自在王の花環>』(Pan chen blo bzang chos kyi rgyal mtshan 1973), チャンキヤ一世(ガワン・ロサンチュエデン)の著作

(TTP, No.6236)を参照し、NPYとの異同等は訳注に記した。これらの二文献については森(1989:236)を参照。

- ⑤ 内容の理解をはかるために()に説明の語句、原語、漢訳語などを入れた。翻訳上補った語句は〔 〕内に入れた。また、内容に応じて段落を分け、見出しをつけた。段落の区分と見出しは立川(1993, 1995)および拙稿(1994)に準ずる。

〔1. 場の設定〕

ヴァジュラフーンカーラ・マンダラについて。金剛籠(vajrapañjara)の内側に法源(dharmodaya)があり、〔そこに〕楼阁がある。

〔2. マンダラの諸尊の観想〕

〔2.1 ヴァジュラフーンカーラの観想〕⁽²⁾

その中央の二重蓮華と日輪の上に、バイラヴァ Bhairava とカーララートリ⁽³⁾ Kālarātri とを展右(ālīḍha)の姿勢で踏みつけた世尊⁽⁴⁾ トラローキヤヴィジャヤ(降三世)がいる。忿怒の顔で、世界の終末の炎のように燃えさかり、世界中の妨害者(vighna)の群れを飲み干すようである。身色は青で、中央が青、右が黄色、もう一方(左)が緑で、大きな口をあけた畏怖すべき三つの面をそなえ、牙をむき舌がだらりとたれ、とても恐ろしい。それぞれの顔にはしかめた眉と赤く丸い三眼がある。額の上には⁽⁷⁾五つの頭蓋骨の環を、首には血のしたたる五十の人頭をつなげた首飾りをぶら下げ、六種の装身具を身に付ける。褐色の髪には青い⁽⁹⁾アナンタ Ananta を巻き付け、赤いタクシャカ Takṣaka を耳飾りにし、蓮の糸のように白いマハーパドマ Mahāpadma は嬰珞にし、ダルバ草⁽¹⁰⁾のような緑色をしたカルコータカ Karkoṭaka は聖紐にし、白いヴァースキ Vāsukhi は腰帯にし、黒く美しいパドマ Paṭma は足輪にし、黄色いシャンカパーラ Śaṅkhapāla は腕釧にし、煙のようなまだらのクリカ Kulika は臂釧にして巻き付ける。金剛薩埵 Vajrasattva を〔頭

に〕印としてつける。⁽¹¹⁾金剛杵と金剛鈴を持った両手で降三世印⁽¹²⁾を結びながら自らと同じような姿を持つ明妃を抱擁する。〔残りの〕右の二臂には鉤と綱索を、左の二臂にはカパーラとカトヴァーンガを持つ。このように観想せよ。

[2.2 八方の忿怒尊の観想]⁽¹³⁾

- 2.2.1 その東にはヴァジュラダнда⁽¹⁴⁾がいる。身色は青で、中央が青、右が黄色、左が緑の三面をそなえる。右の二臂で金剛の鎚と、直立した金剛杵を期剋印 (tarjani) を示しながら持ち、左の二臂でカパーラとカトヴァーンガを持つ。
- 2.2.2 北にはアナラールカ⁽¹⁵⁾がいる。身色は黄色で、〔中央が〕黄色、〔右が〕青、〔左が〕緑の〔三〕面をそなえる。〔右の〕第一臂に金剛の杖を持つ。〔残りの三臂には〕金剛杵などをヴァジュラダндаと同じように持つ。後述の〔八尊〕も同様である。
- 2.2.3 西にはヴァジュラウシュニーシャ⁽¹⁶⁾がいる。身色は赤で、〔中央が〕赤、〔右が〕黄色、〔左が〕緑の〔三〕面をそなえる。赤い蓮華を手にする。
- 2.2.4 南にはヴァジュラクンダリン⁽¹⁷⁾がいる。身色は緑で、〔中央が〕緑、〔右が〕黄色、〔左が〕白の〔三〕面をそなえる。二重金剛杵で手を飾る。
- 2.2.5 南東にはヴァジュラヤクシャ⁽¹⁸⁾がいる。身色は灰色で、〔中央が〕灰色、〔右が〕黄色、〔左が〕緑の〔三〕面をそなえる。鉤を持つ。
- 2.2.6 南西にはヴァジュラカーラ⁽¹⁹⁾がいる。身色は赤で、〔中央が〕赤、〔右が〕黄色、〔左が〕緑の〔三〕面をそなえる。斧を手を持つ。
- 2.2.7 北西にはマハーカーラ⁽²⁰⁾がいる。身色は青で、〔中央が〕青、〔右が〕黄色、〔左が〕緑の〔三〕面をそなえる。三叉戟を手を持つ。

- 2.2.8 北東にはヴァジュラビーシャナ(49)がいる。身色は黒で、斜視である。
〔中央が〕黒,〔右が〕黄色,〔左が〕緑の〔三〕面をそなえる。剣を
手にする。

〔2.3 八尊と十忿怒尊との同体関係〕

- 2.3 これらヴァジュラダンダをはじめとする八尊は、順にヤマーンタカ
Yamāntaka, プラジュニャーンタカ Prajñāntaka, パドマーンタ
カ Padmāntaka, アムリタクンダリン(50) Amṛtakuṇḍalin, タッキラ
ージャ Ṭakkirāja, ニーラダンダ Niladaṇḍa, マハーバラ Mahā-
bala, アチャラ Acala の別称である。

〔2.4 上下の二尊の観想〕

- 2.4.1 上方にはウシュニーシャチャクラヴァルティン(51)がいる。身色は白
である。〔中央が〕白,〔右が〕青,〔左が〕緑の〔三〕面をそなえ
る。円盤を手にする。
- 2.4.2 下方にはヴァジュラパーターラ(52)がいる。スンバ Sumbha という
別称を持つ。身色は青で,〔中央が〕青,〔右が〕黄色,〔左が〕緑の
〔三〕面をそなえる。金剛の棍棒(53)を〔右〕手であやつる(54)。一方,左手
には蛇でできた羂索とカトヴァーンガ(55)を期剋印を示しながら〔持つ〕。

〔2.5 十尊の尊容に関する補足説明〕

これらヴァジュラダンダ以下の忿怒尊は第一の持物とカパーラを持った
両腕で、自分と同じような姿をした明妃を抱擁する。髪は褐色に輝いて逆
立ち,〔頭には〕自分の部族主を飾る輝く宝冠をいただき,眉をしかめ大
きく口をあける。それぞれの顔には赤く丸い三眼を有し,人間の頭をつな
げた首飾り,五種の装身具などと八匹の龍王とによって飾る。二重蓮華と

日輪の上に〔四方と四隅では〕護方尊 (dikpāla) の八尊を、上方では〔ウシュニーシャチャクラヴァルティンが〕ブラフマー Brahṃā (梵天) を、下方では〔ヴァジュラパーターラが〕ヴェーマチトリン Vemacitrin を踏みつけて、展右の姿勢で立つ。自分の部族主を〔額に〕印づけるが、〔各尊と部族主との対応は〕文殊金剛マンダラにおける十輻輪 (daśāra-cakra) 上〔の十忿怒尊〕と同様である。

〔3. マントラの規定〕

- 3.1 世尊ヴァジュラフーンカーラの心種子 (hṛdbija) は「フーン」である。
- 3.2 「オーン、カ、ヴァジュラドリック、金剛よ、フーン、パット」というのが心真言 (hṛdaya) である。
- 3.3 「オーン、ヴァジュラクンダリンよ、金剛よ、フーン、パット」というのがヴァジュラクンダリンのマントラで、すべての儀礼行為のためのマントラである。

〔4. 十尊に関する補足説明〕

- 4.1 あるいは、東をはじめとする四方四隅上下の二重金剛と日輪の上には右回りにヤマータカをはじめとする十忿怒尊 (daśakrodha) を観想してもよい。これら〔十忿怒尊の〕姿勢や身色などについては『略集〔成就法〕』に説かれる〔阿閼〕マンダラの〔十忿怒尊〕、あるいは文殊金剛マンダラの十輻輪上の〔十忿怒尊〕、あるいは『シュリーサンブタタントラ』に説かれる金剛薩埵マンダラの〔十忿怒尊と同じである〕。
- 4.2 また、これら三つの場合には「オーン、アーハ、ヴィグナータカリット、フーン」というのがヴィグナナリ Vighnāri (=ヴィグナータカ) のマントラで、すべての儀礼行為のためのマントラである。

訳註

- (1) 拙稿でP (IASWR 1975: MBB-I-144) として示した写本は, 'prāyaścitta vidhiḥ' のタイトルを持つテキストで, 内容を検討した結果, NPY の写本ではないことが明らかとなった。また Q (IASWR 1975: MBB-II-118) と R (IASWR 1975: MBB-II-244) は同一写本で, 写本 Q の末尾6葉が R には含まれない以外は両者に違いがないことを確認した。本稿では R として表記する。したがって現存する NPY の写本は22本になる。
- (2) ヴァジュラフーンカーラ・マンダラの典拠となる文献は母タントラ系の『アビダーナ・ウツラタントラ』*Abhidhānottaratantra* である (森 1996)。同経に説かれるヴァジュラフーンカーラの尊容は以下の通り (サンスクリット・テキストは Lokesh Chandra (1981: 23.1-23.3), チベット訳は TTP, No.17, Vol.2, 44.4.1-4)。
- 褐色の髪で飾られ, 牙をむき, 虎の生皮をかぶり, 恐ろしい環で飾られる。忿怒にあふれ, あらゆる宝石で装飾される。展右で立つ。鉤, 網索, カトヴァーンガ (khaṭvāṅga: 頭蓋骨などの付いた棒) を〔右手に〕持ち, 金剛杵, 鈴, カパーラ (kapāla: 頭蓋骨の杯) を〔左手に〕持つ。人頭の首飾り, カパーラの環を首にかけ, あらゆる悪しき者を足の下に踏みつける。方便と般若をそなえる。金剛薩埵 Vajrasattva [の像] を頭に付ける。
- (3) バイラヴァとカーララートリについては, 森 (1992: 103, 註9) 参照。
- (4) ヴァジュラフーンカーラとトライローキヤヴィジャヤの図像学的特徴については Mallmann (1964: 131-132; 1975: 381-383), Saraswati (1977:64-65), Mitra (1978: 86-91), 立川 (1987: 131), 森 (1990: 72-74, 78-79, 82-83) 参照。このうち Mitra (1978) には NPY 第11章の冒頭部分の抄訳も含まれる。NPY ではこの第11章の他に第21章にトライローキヤヴィジャヤは登場する (森 1989:246)。また『サーダナマラー』*Sādhanaṁālā* にはトライローキヤヴィジャヤ (第262番) とヴァジュラフーンカーラ (第257番) の成就法がそれぞれ1点ずつ含まれ (Bhattacharyya 1968b: 511,506), このうち前者は NPY の第21章の記述にかなり合致する (森 1989: 259)。また, 後者はサンスクリット・テキストからの和訳が竹前 (1968), チベット訳テキストからの和訳が越智 (1968) として発表されている。
- (5) インドの宇宙観によれば, 劫 (kalpa) の終わりには世界を燃え尽くす炎が現れる (定方 1985: 147)。
- (6) P2 は vikṛta の対応語を欠く。
- (7) P2: dpral ba'i thog du zla ba'i steng na (額の上部の月の上に)。
- (8) 六種の装身具については森 (1992: 103, 註12) 参照。P2 をのぞくチベット訳

- は「明妃を伴なう」(yum dang bcas pa) である。サンスクリット・テキストを *ṣaḍmudrā* ではなく *samudrā* と読んだのであろう。
- (9) アナンタからクリカまでの八匹は、「八龍王」(aṣṭanāgarāja) である。このマンダラでは、中尊のヴァジュラフーンカーラばかりではなく、その回りの十尊も八龍王を装身具としてからだに巻き付ける。八龍王はマンダラに登場することもあり、NPY 第21章では第四重の西の部分に位置する(森 1989: 250)。
- (10) ダルバ草 (*dūrva*) はインドで古くより祭式に用いられた植物である。和名は茅草、学名は *Saccharum Cylindricum*。Cf. Gonda (1985: 52-96)。
- (11) 金剛薩埵を上首とする部族にヴァジュラフーンカーラは含まれる。部族の規定は NPY の重要な内容の一つで、この章では尊容の記述の中に組み込まれているが、多くの章では尊容の記述とマントラの規定との間に置かれる。NPY の内容については拙稿(1996) 参照。
- (12) 『ヴァジュラーヴァリー』(VA) におけるヴァジュラフーンカーラの尊容に関する記述では、降三世印は「金剛杵と金剛鈴をもつ両金剛拳の甲を合わせて、両方の小指をからめ、両方の人差指を伸ばす」(森 1992: 98) と規定される。
- (13) これら 8 尊の尊容の簡単な記述が Bhattacharyya (1968a) に含まれる。なお、ヴァジュラフーンカーラの周囲の 10 尊の名称も『アビダーナ・ウッタラタントラ』(Lokesh Chandra 1981: 24.4-24.6) に登場するが、NPY とは以下の 3 尊の尊名が異なる(括弧内は NPY の尊名)。東が Vajracanḍa (Vajra-daṇḍa)、北が Vajrānalarka (Analārka)、北西が Mahābala (Mahākāla)。
- (14) P2 をのぞくチベット訳は「ヴァジュラ・アナラールカ」(rdo rje nyi ma)。これは『アビダーナ・ウッタラタントラ』に現れる尊名に一致する。
- (15) P2 をのぞくチベット訳は「北には」(byang tu)。
- (16) P2 をのぞくチベット訳は「[右が] 白, [左が] 黄色」(dkar po dang ser po)。パンチュン一世 (f.56, l.6)、チャンキャ (TTP, Vol. 162, 310.3.5) もこの順序である。
- (17) チベット訳は P と N が「ヴァジュラ・アムリタカーラ」(rdo rje bdud rtsi dus)、D と P2 が「ヴァジュラアムリタ」(rdo rje bdud rtsi)。
- (18) P2 は「マハーバラ」(stobs po chen) これは『アビダーナ・ウッタラタントラ』に現れる尊名に一致する。
- (19) 斜視 (kekara) はアチャラ Acala の身体的特徴であるとともに、この尊の異称でもある。ヴァジュラビージャナとアチャラとの同体関係は次の段落で示される。
- (20) チベット訳はいずれも「ヴィグナーンタカ」(bgegs mthar byed)。
- (21) P2 は vajra の対応語を欠く。

- (22) P2 は *lalita* の対応語を欠く。
- (23) 護方神は世界の八方を守るヒンドゥー教の神で、インドラ（東）、ヤマ（南）、ヴァルナ（西）、クペーラ（北）、イーシャーナ（北東）、アグニ（南東）、ニルリッティ（南西）、ヴァーユ（北西）の組み合わせが、もっとも代表的なものである。これらの名称は VA の「妨害者にキーラを打つ儀軌」(Vighnakīlanavidhi) に登場するマントラにおいても示されている（森 1992: 99）。
- (24) ヴェーマチトリンに関する詳細は不明。VA の「妨害者にキーラを打つ儀軌」では、スンパに対応する妨害者の名称は「地天」(pṛthividevatā) である（森 1992: 99）。NPY 第21章「法界語自在マンダラ」では第四重に位置する8尊の阿修羅のひとりにヴェーマチトリンの名があげられている（森 1989: 250）。また『ヘーヴァジュラタントラ』*Hevajratantra* では15人のダーキニー (dākīnī) のひとりドーンビニー *Dombinī* に踏みつけられる者の名がヴェーマチトリンである (Snellgrove 1959 (part 1):112)。
- (25) NPY の第1章を指す。該当箇所は森 (1994: 134)。これによれば、10尊のうちヤマーンタカの部族主が大日 *Vairocana*、パドマーンタカが無量光 *Amitābha*、そのほかの8尊は阿閼 *Akṣobhya* である。チャンキャ (TTP, Vol. 162, 210.4.4-5) にもこの規定は言及されている。なお、この部分のチベット訳はテキストによって解釈が異なる。P, D, N: *ji ltar 'jam pa'i rdo rje'i dkyil 'khor gyi rtsibs bcu pa'i bsung ba'i khor lor bshad pa bzhin no* (文殊金剛マンダラの十幅の守護輪の箇所の説明した通りである); P2: *'jam pa'i rdo rje ji lta ba bzhin du 'khor lo'i rtsibs bcu la bsgom par bya'o* (文殊金剛 [マンダラ] のように [守護輪] の十幅に観想する)。
- (26) チベット訳はいずれも「オーン、カ、ヴァジュラドリック、ヴァジュラフーンカーラよ、金剛よ、フーン、パット」である。
- (27) P2 をのぞくチベット訳は「ヴァジュラクンダリン」の対応語を欠く。
- (28) 十忿怒尊については拙稿 (1991, 1992) 参照。
- (29) これら三つのマンダラは、順に NPY 第2, 1, 3章に相当する。拙稿 (1992: 95) 参照。

II. サンスクリット・テキスト

- 1.1 vajrahūṃkāramaṇḍale vajrapañjarāntardharmodayāyāṃ¹
 kūṭāgārasya² madhye³ viśvābjasūryopari⁴
- 2.1 bhairavakālarātryāv⁵ ālīḍhacaraṇābhyām⁶ ākrāntas⁷

trailokyavijayo⁸ bhagavān⁹ krudhyan¹⁰ pralayānalavajjva-
laḥ¹¹ kavalayann¹² iva jagadvighnavṛndāni¹³ nīlo¹⁴ nīlapīta ha-
ritamūlasavyetaravyāttavikṛtavaktratrayo¹⁵ daṃṣṭrotka-
ṭalalajjihvo'tibhīṣaṇaḥ¹⁶ pratimukhaṃ¹⁷ sabhrūbhaṅgabhr-
kuṭīraktavarttulatrinetro¹⁸ lalāṭopari¹⁹ pañcakapālāvali-
rggalāvalambitagaladasrapañcāsacchiraḥśreṇīkaḥ²⁰ ṣaṇ
mudro²¹ nīlānantavalayitordhvakapilakuntalo²² raktatakṣa-
kakṛtakarṇāvataṃso²³ mṛṇāladhavalamahāpadmakṛtahāro²⁴
dūrvāśyāmakarkkoṭakakṛtayajñopavītaḥ²⁵ śuklavāsukikṛ-
tamekhalāḥ²⁶ kṛṣṇasundarapadmakṛtanūpuraḥ²⁷ pītaśaṅkha-
pālakṛtakaṅkaṇo²⁸ dhūmābhakarburakulikakṛtakeyūro²⁹
vajrasattvamudrito³⁰ vajravajraghaṇṭābhṛdbhujābhyāṃ³¹
trailokyavijayamudrayā³² svābhaprajñāsamāpanno³³ dakṣi-
ṇapāṇibhyāṃ³⁴ ankuśapāsau³⁵ vāmābhyāṃ³⁶ kapālakhaṭvā-
ṅge³⁷ bibhrāṇo³⁸ bhāvyaḥ /

2.2.1 asya³⁸ pūrvasyāṃ³⁹ diśi⁴⁰ vajradaṇḍo⁴¹ nīlo⁴² nīlapītaharita-
mūlasavyetaravakraḥ⁴³ savyabhujābhyāṃ⁴⁴ vajramudgaram⁴⁵
uddāmitasatarjanīvajraṃ⁴⁶ vāmābhyāṃ⁴⁷ kapālakhaṭvāṅge⁴⁸
dadhāṇaḥ /

2.2.2 uttarasyāṃ⁴⁷ analārkaḥ⁴⁸ pītaḥ⁴⁹ pītanīlaharitamukho⁵⁰
vajradaṇḍadharaḥ⁵¹ pradhānapāṇinā⁵² vajrādicihnāni⁵³
vajradaṇḍasyevāsyā⁵⁴ vakṣyamāṇānāṃ⁵⁵ ca /

2.2.3 paścimāyāṃ⁵⁵ vajroṣṇīṣo⁵⁶ rakto⁵⁷ raktasitaharitamukho⁵⁸
raktapadmapāṇiḥ /

2.2.4 dakṣiṇasyāṃ⁵⁸ vajrakuṇḍalī⁵⁹ harito⁶⁰ haritapītasitavadano⁶¹
viśvavajrārcitakaraḥ /

- 2.2.5 āgneyyā⁶²m vajrayakṣo⁶³ dhūmravarṇo⁶⁴ dhūmrapiṭaharitamukho⁶⁵ 'ñkuśadhāri⁶⁶ /
- 2.2.6 nairṛtyā⁶⁷m vajrakālo⁶⁸ rakto⁶⁹ raktapiṭaharitavakraḥ⁷⁰ parśupāṇiḥ⁷¹ /
- 2.2.7 vāyavyā⁷²m mahākālo⁷³ nilo⁷⁴ nilapiṭaharitamukhas⁷⁵ triśūlapāṇiḥ⁷⁶ /
- 2.2.8 aiśānyā⁷⁷m vajrabhiṣaṇaḥ⁷⁸ kṛṣṇaḥ⁷⁹ kekaraḥ⁸⁰ kṛṣṇapiṭaharitavakraḥ⁸¹ khaḍgapāṇiḥ⁸² /
- 2.3 ete vajradaṇḍādayo⁸³ 'ṣṭau⁸⁴ yathākramam⁸⁵ yamāntakaprajñāntaka-padmāntaka-amṛtakuṇḍali-ṭakkirāja-nīladaṇḍa⁸⁶ -mahābala-acala-aparanāmanaḥ⁸⁷ /
- 2.4.1 ūrdhvam⁸⁸ uṣṇīṣacakravartti⁸⁹ sitaḥ⁹⁰ sitanīlaharitamukhas⁹¹ cakrapāṇiḥ⁹² /
- 2.4.2 adho⁹³ vajrapātālaḥ⁹⁴ sumbhāparanāmā⁹⁵ nilo⁹⁶ nilapiṭaharitāsyo⁹⁷ vajramuṣalalalitakaraḥ⁹⁸ vāme⁹⁹ tv asya nāgapāṣa-tarjanatakhaṭvāṅgaḥ¹⁰⁰ /
- 2.5 ete vajradaṇḍādayaḥ¹⁰¹ krodhā¹⁰² pradhānaciḥnakapālānkita-karābhyā¹⁰³m āliṅgitasvābhaprajñā¹⁰⁴ jvaladūrdhvakapilakuntalā¹⁰⁵ḥ svakulanāthodbhāsimukuṭā¹⁰⁶ḥ sabhrūbhaṅgabhr-kuṭīkarālavadanā¹⁰⁷ḥ prativakraḥ¹⁰⁸ raktavarttulatrinetrā¹⁰⁹ nṛmuṇḍamālāpañcamudrādyasṭabhujagarājabhūṣaṇā¹¹⁰ viśvābjasūryeṣv¹¹¹ aṣṭau¹¹² dikpālān¹¹³ ūrdhvato¹¹⁴ brahmāṇam¹¹⁵ adhaś¹¹⁶ ca vemacitriṇam¹¹⁷ ākramyālīḍhacaraṇābhyā¹¹⁸m¹¹⁹ sthitā¹²⁰ḥ svakuleśamudritā¹²¹ yathā¹²² mañjuvajramaṇḍalasya¹²³ daśāracakre /
- 3.1 bhagavato¹²¹ vajrahūmkārasya¹²² hr̥dbījam¹²³ hūṃ /

- 3.2 *om kha vajradhṛk vajra hūṃ phaṭ / iti hrdayaṃ /*^{124 125 126}
- 3.3 *om vajrakuṇḍali vajra hūṃ phaṭ / iti vajrakuṇḍaler*^{127 128 129}
*mantraḥ sārva-karmikaḥ /*¹³⁰
- 4.1 *atha vā pūrvādidigvidigūrdhvādhoviśvāmbhoja-*
bhānuṣu dakṣiṇāvarttena yamāntakādayo daśakrodhāḥ /^{131 132}
eṣā sthānaṃ varṇādikañ ca yathoktaṃ pīṇḍīkrama-
uktamaṇḍale yathā vā mañjuvajramaṇḍalasya daśāra-
cakre yathā vā śrīsamṃpuṭa-uktavajrasattvamaṇḍalasya /^{133 134 135 136 137 138}
- 4.2 *eṣu triṣu api pakṣeṣu om āḥ vighnāntakṛt hūṃ iti*^{139 140 141}
vighnārer mantraḥ sārva-karmikaḥ /^{142 143 144 145 146 147}

テキスト校註

- 1 Bhatt. °dharmodaya; BCFKORV °ntadharm°.
- 2 DKR kūtāṃgārasya.
- 3 C madhyaḥ; DGIKLNW madhya.
- 4 B viśvabja°; N °yoparī.
- 5 C °kālirātryāv; D °kāralātryāv.
- 6 I ālitacaṭṭacara°; L *inserts* gaṇābhyām; O ālitaradacara°; V °caraṇāmbhyām.
- 7 B ākranta; V ikrantas.
- 8 B trilokya°; F traikṛvijayo.
- 9 R bhavān.
- 10 Bhatt. kruddhānanaḥ; BILNOT kruddhāna; C *omits* krudhyan; D dhyān; G dhyān; M krudhyona; V kudhyan.
- 11 Bhatt. I °vajjvalan; C pralayānavarjvalaḥ; D °vajjvalajvālaḥ vadanaḥ; EGW °vajjvalat jvālaḥ vadanaḥ; F° vajjvalan jvālaḥ vadanaḥ; H °vajjvala jvālaḥ; K °vajjvalaj jvalaḥ; L pralayāmalayamavajjvalaj jvālaḥ; M °vajjvalaj jvālaḥ; N °vajjvalaḥ; R °vajjvalajvālaḥ; V °vajjvalajvalavadana.
- 12 E kavalann; F V kavann; K kavalayānn; W kavalarn.
- 13 F jagavighnavṛkṣāni; N °vṛndāni.
- 14 CLN *omit* nilo; F nilā.

- 15 Bhatt. °vyāḍavikṛ°; C °vaktratayā; F °savyatavyāndattavi°; G °vyāvṛtta°; N°pītaḥarīta°; R °savyottavi°; V °haritasarasavyetaravyāvṛtavi°; W °pitaharitamūlasavyetaravyāvṛttavi°.
- 16 BIO draṃṣṭro°; C daṣṭo°; DKLN draṣṭro°; E draṃṣṭrotkaṭālalaj°; F daṣṭrotkaṭālalajjihva; HMT daṣṭro°; R daṣṭrotkaṭalalajihvo; V draṣṭrotkaṭālalajihvām; W draṣṭrotkaṭālalarjjihvā.
- 17 C °bhīṣanaṣṭa; NR °tibhīṣaṇaḥ; O °tibhīṣaḥ; V tibhīṣaṇa/.
- 18 EF pratibhimukham; W prativipuṣaṃ.
- 19 Bhatt. °bhrūkuṭi°; BC °bhkuṭilarakta°; DHKR °bhṛkuṭikuṭilarakta°; EF °bhaṅgakuṭirakta°; GILNTX °bhṛkuṭirakta°; M bhṛkuṭikuṭirakta°; O °bhaṅgaṃ bhṛkuṭilaraktavarttulatritro; V °bhaṅgakuṭitvarakta°; W °bhaṅgakuṭilarakta°.
- 20 N lalāṭopari; V lalāṭopari.
- 21 Bhatt. °valambigalad°; BKRTVW °śreṇikaḥ; C °lambitamaladasra°; E °lambigalāvalambigaladasra°; F °lambilambigaladasrapañcācchiraḥ°; I °pañcāgac°; N °valīggalāva°; V °kapālāyaligalāvāvalambitaviṣalad°; W °varambilambigaladasrapañcācchiraḥ°.
- 22 N ṇmudro; V °mudrā.
- 23 C kapilakuntalo; D ninanta°; E °kapilordhvakapilakuntalo; F°layitordhvakapilordhvakapilakuntalo; K nilananta°; L nīlanta°; M ninanta°; V nilinantavayitordhvakapilordhvakapirakūṭo; W nīlānantacalayitordhvakapilodhvakapirakuntalo.
- 24 C raktatantakakṛtakarṇovataso; D °karṇāvabhāso; E °kṛtkarṇāvṛtaso; F °kṛtakarṇāvṛtamso; KL °vatāso; R °vabhāso; T kṛtarṇāvṛtaso; V °kṛtakṛṣṇāvṛtaso; W °kṛtkarṇāvṛtaso.
- 25 BINO °kṛtahārāro; C mṛṇmaladhavalahmahāpadmakṛmahārāro; F °dhavamahāpadma°; N °hāroro; V °padmakṛhāro.
- 26 C dūrvārsyāmakarkkaṭaka°; EFW °pavitaḥ; IN °yajñopravītaḥ; R °kṛtajajñopa°; V °karkkoṭakṛtayajñopavīta.
- 27 DHKLM °vāsuki // kṛta°; F °kṛmekhalah; R °vāsuki // kṛtamekhala; T °vāsukikṛtamekhalāḥ; V °vāsukikṛtmekhala; W °vāsuki°.
- 28 DKM anantasundara...kṛtanopuraḥ//; LR anantasundara°; EGW andasundara°; H anamtasundara°; KM °ṇopuraḥ.
- 29 D °śaṃkhapārakṛtakamkaṇo; I °kṛtakamkaṇo; O pitaśaṃśakhapāla°; R °śaṅkhakapāla°; V pītasya śaṅkha°; W pitasakhapārakṛ-

- ta°.
- 30 B kṛtavāyūro; I °kṛtavoyūro; M °keyūra; V dhūmābhamābhakapurakurikakṛta°; W °kurikakṛta°.
- 31 NT °mudrito.
- 32 EVW vajraghaṇṭābhṛtabhuj°; FGINO vajraghaṇṭā°.
- 33 B °mudriyā; C °vijayāmudrāyā; E trailokṛvijayāmudrāyā; FVW °vijayāmudrayā; R trailokeviyemudrayā.
- 34 C svābhaḥ pra°; I°panna.
- 35 V dakṣiṇepāṇi°.
- 36 C bitrāno.
- 37 F bhāvayaḥ; V svarthaḥ; W snadhāthaḥ.
- 38 C pūrvāsyā; W pūrvvasyā.
- 39 T vajraṇḍo.
- 40 K *omits* nilo.
- 41 C °mūrasavyetaravaktrāḥ; N °harita°; V °vaktra.
- 42 CI savye bhujābhyām.
- 43 X vajramugaram.
- 44 Bhatt. vajramudgaramudrān vitasatarjani°; B urdāmita°; C uddāmisatarjani°; EVW *omit* vajraṃ; F *omit* vajraṃ vā(mābhyām); N °sarjanivajraṃ; O urddāmita°; R °tarjanivakra; T udāmitarjani°.
- 45 K vapāla°.
- 46 T dadhāṇa; V dadhāṇaṃ.
- 47 BIKMNORX analārka; C alalārka; D analārka; V anarākaḥ.
- 48 BDHIMNOR pīta; CEFGLVWX *omit* pītaḥ.
- 49 N °harita°; T *omits* pīta.
- 50 C °dharaṃ; V °dharā.
- 51 N °pāninā.
- 52 EFGVW vajrādibhicihnāni; N °cihnāni.
- 53 Bhatt. °daṇḍasya vā 'sya; EO *omit* vāsya.
- 54 I °daṇḍasya vavajamāṇā; O vakṣyamāṇaṃ; T °daṇḍasya vajramānānāṃ.
- 55 C rokto; R *omits* rakto.
- 56 C raktasītarharitarakto; R raktaśīta°.
- 57 O °pāni.
- 58 DEHIKNOX °kuṇḍali; G °kuṇḍalir; MV °kuṇḍari; W °kuṇḍari.

- 59 C *omits* harito; N harīto.
- 60 C *omits* sita; I harīta°; N harītapītasītavadano; O °pitasita°; R °pitaśīta°; V °vadanā; W °vadanau.
- 61 Bhatt. °vajrāñcitakaraḥ; V °kara.
- 62 CRTW āgneryyām; I āgneryyā; OV āgneyyā.
- 63 K vajrajakṣo; T vajrajrakṣo; W vajrarakṣo.
- 64 TW *omit* dhūmaravarṇo.
- 65 C dhūma°; N °harīta°; V pītāharīta°; W °pitaharīta°.
- 66 C 'kuśadhāri; O °dhāri.
- 67 BI raktā.
- 68 C °haritadvakraḥ; DHK °haridvakraḥ N °harīta°; O°pītahadvakraḥ: V *omits* rakta.
- 69 Bhatt. N W paraśupāñiḥ; C prarśupāñi; K parasupāñi; OVX parśupāñi.
- 70 DK vāyuvyām.
- 71 IO mākālo; W mahākāro.
- 72 BCINOTVX *omit* nilo.
- 73 E °haritamus; N °pītarītamukhaḥ; V °haritamuva.
- 74 V trīśūlaṃ pāñiḥ; N °pāñi; W trīśūrapāñiḥ.
- 75 V aiśānyā; W aiśānyām.
- 76 NW vajrabhiṣaṇaḥ; R vajrabhiṣaṇa; V °bhiṣaṇa.
- 77 EW kṣṇa; V kṣṇam.
- 78 Bhatt. kekara; C *omits* kṣṇaḥ kekaraḥ; K kakalaḥ; M kecalaḥ; V keṅkaraḥ.
- 79 F °harīvaktraḥ; k °harīta°; N harītavakraḥ; T °vaktra.
- 80 L *repeats* vāyavyām...khaḍgapāñiḥ *twice*; V °pāñi.
- 81 Bhatt. CNOTX vajrādayo; B vajradayo.
- 82 W °kramaḥ.
- 83 R jamāṃtaka.
- 84 Bhatt. B °kuṇḍali; CW °kuṇḍari.
- 85 BMNRTV ṭarkkirāja; W ṭakirāja.
- 86 F nīlada; K nīradaṇḍa; W nīradaṇḍa.
- 87 BINT °calāparanāmānaḥ; C carānāmānaḥ; EFGW °calānāmānaḥ; R °calāparamānaḥ; V °calānāmāni.
- 88 V ūrdhva.

- 89 B uṣṇīcakra°; C uṣṇīṣacakravartti; FINORTVW °vartti.
 90 C *omits* staḥ; R śītaḥ.
 91 B °mukha; C sītanilaharitamú; EVW °harinmukhaś; N °harīta°;
 R śītanīla°; T *omits* nila.
 92 V °pāṇi.
 93 V adhaṃ.
 94 V °pātāla // .
 95 C sūmbharājapranāmā; W sambhā°.
 96 O *omits* nīlo.
 97 C nīpītahari°; D °haritāsyā.
 98 Bhatt. vajramūśala°; BCNTX vajramuśala°; DKLM vajramukhala°;
 G °muśalakalita°; O vajramuśalalalita°; R vajramukhalalalitam
 karaḥ; V vajramukhacalalita°; W vajramukharalaritakaraḥ
 99 D K vāmye; T *omits* (vām)e tv.
 100 Bhatt. °tarjanikhaṭvāṅgān; C °ṭvāṅgaḥ; DLM °tarjanita°; E
 °tarjanīta°; F °pāśavajranīnatakhaṭvāṅga; H °tarjanikhaṭ°; K
 °tarjanikhaṭ°; R °tarjanīta°; V nāgatajanīnakhaṭvāṅgam; W
 °tarjanitatakhaṭ°.
 101 T °daṇḍādayo.
 102 Bhatt. BCDGHKLMRT krodhāḥ.
 103 Bhatt. °kapālañcita°; I budhāna°; R °kapālāṃvikatakarābhyām.
 104 C °svābhajñā; F ālīṅgitatvābha°.
 105 C °kapigalakantāḥ; N °kapīla°; R jvālaṃ dūrdhvakapīlakumṭala.
 106 B I °nāthohasimukuṭāḥ; E °mukuṭā; F svakulanāthokkāsitamum-
 kuṭā; N °dbhasimukuṭāḥ; O °nāthothāhasimukuṭāḥ; R *omits*
 svakula; T svalanāth°; V svakuranāthokkāsitamakuṭā; W °nāth-
 odkāsitamukuṭā.
 107 Bhatt. °bhrukuṭī°; K °kalāravadanāḥ; W °bhṛkuṭīkarāradanāḥ.
 108 EFW °vaktra; O *omits* vaktraṃ rakta.
 109 C nṛmundramālā...bhujamgarājabhūkhanā; X °bhujamga°.
 110 B °sūryyavv; DIR °sūryaṣv; T °sūryyaṣv; V sūryeṣṭh; W viśvā-
 kjasūryeṣv.
 111 CX dikapālān.
 112 C ardhvato; F ūrdhvatto.
 113 N adhoś; V adhyaś.

- 114 DK vemacitraṇam; T vematriṇam; W vama°.
- 115 EFVW ākrāmy°.
- 116 BCDM sthitaḥ//; KNRTX sthitaḥ; O sthitāḥ/; V sthitā.
- 117 K svakuleṣānmudritā; M svakuleṣa° R svalukeṣaṭamudritā; T °kulesamudritā; V °muditā; W svakuresamudritār.
- 118 N *repeats yathā twice*.
- 119 Bhatt. mañjuvajrasya; V °maṇḍalasye.
- 120 VW °cakro.
- 121 T bhagavaṃto.
- 122 B °hūmkāsyā; F vajrahūkārasya.
- 123 B ḥṛdbajaṃ; F °bija; W °bijaṃ.
- 124 F *omits* hūṃ.
- 125 Bhatt. C *omit* phaṭ.
- 126 W ḥṛdayaḥ.
- 127 BR °kuṇḍalī; C vajrakulī; W °kuṇḍarī.
- 128 F *omits* hūṃ.
- 129 Bhatt. B vajrakuṇḍalī; EI °kuṇḍalī; F °kuṇḍa; M °kuṇḍala; W °kuṇḍarī.
- 130 DKNR sarvva°.
- 131 BE °digvigūrdhv°; FW °digvimurdhv°; I °vidipūrvvadho°; N°digvidig°; O vidīśūrdhvā°; T pūrvādīgvidīgārdhvā°; V digvigūrdhv°; W °bhānukhu.
- 132 W °ādayoḥ.
- 133 Bhatt. IN eṣāṃ; T ekā.
- 134 V sthāne.
- 135 Bhatt. eṣāṃ sthānavarṇādikañ.
- 136 BIKRT yathokta.
- 137 C piṇḍikarmokta°; IO piṇḍikamo°; MVW piṇḍikram°; R piṇḍikamokta°; V *inserts* ca.
- 138 EFGVW *omit* vā; O vāma.
- 139 RT dasāra°.
- 140 V *omits* yathā vā.
- 141 Bhatt. °saṃpuṭavajrasattvamaṇḍale; CIN °sāmpuktavajra°; FO °saṃpuṭavajra°; K °maṇḍasya.
- 142 DK eṣa.

- 143 EVW triṣu pi.
 144 W pakṣaṣu.
 145 Fā.
 146 B vighnāntakṛt; CIO vighnāntakṛt; N vighnāntakkikṛt!
 147 DF vighnāntarer; K vighnāntvare; L vighnāntare; M vighnāntakasya; R vighnāntakare; V vighnāntakṛtare.

III. チベット訳テキスト

- 1.1 rdo rje hūṃ mdzad kyi dkyil 'khor la rdo rje gur gyi
 nang du chos 'byung gi dbus su gzhal yas khang ngo//
 de'i dbus su sna tshogs padma dang nyi ma'i steng du
- 2.1 'jigs byed dang dus mtshan g'yon bskum g'yas brkyang
 bas mnan pa'i 'jig rten gsum las rnam par rgyal ba'i bcom
 ldan 'das khro bo ni bskal pa 'jigs dus kyi me lta bu'i 'od
 zer 'bar zhing 'gro ba ma lus pa'i bgegs kyi tshogs
 thams cad rab tu bsal bar mdzad pa sku mdog sngon po
 sngon po¹ dang ser po dang ljang khu'i² zhal rtsa ba
 dang g'yas dang g'yon gyi mi bsdugs³ pa gdangs pa/
 mche ba gtsigs pa rab tu gtum pa ljags bsgril⁴ ba 'jigs
 su rung ba'i zhal gsum pa re re zhing spyang gsum
 gsum dmar la zlum pa smin ma g'yo ba khro gnyer
 dang bcas pa / dpral ba'i steng na thod pa lnga'i phreng
 ba dang ldan pa khrag 'dzag pa'i mi mgo lnga⁶ bcu'i
 phreng ba mgul bar 'phyang ba yum dang bcas pa klu
 mtha' yas sngon pos dbu skra 'bar zhing dmar ser gyen
 du bcings pa / klu 'jog po dmar pos rna rgyan byas
 pa / klu padma chen po padma'i rtsa ba lta bu dkar

pos mgul rgyan byas pa / klu kar ko ṭa (133,5)
 dur bā⁷ lta bur ljang gus mchod phyir thogs byas
 pa / nor rgyas dkar pos ska rags byas pa / padma dkar pos⁸
 kun ta'i me tog lta bur mdzes pas rkang gdub byas
 pa / dung skyong ser pos lag gdub byas pa / rigs ldan
 dub lta bu khra bos dpung rgyan byas pa / rdo rje
 sems dpas dbu la rgyas btab pa / rdo rje dang dril bu
 'dzin pa'i phyag gnyis kyis 'jig rten gsum las rnam
 par rgyal ba'i phyag rgyas¹⁰ rang gi yum la snyoms par
 zhugs pa g'yas gnyis kyis lcags kyu dang zhags pa dang
 g'yon gnyis kyis thod pa dang khaṭvāṃga 'dzin pa'o //

2.2.1 'di'i shar phyogs su rdo rje dbyug pa sngon po sngon
 po dang ser po dang ljang gu ni rtsa ba dang g'yas
 dang g'yon gyi zhal lo // g'yas pa gnyis kyis rdo rje
 tho ba dang sdigs mdzub dang bcas pa'i rdo rje gyen
 du 'phyar ba / g'yon pa gnyis kyis thod pa dang
 khaṭvāṃga 'dzin pa'o //

2.2.2 byang du rdo rje nyi ma ser po ser po dang sngon po
 dang ljang gu'i zhal lo // khyad par¹¹ ni phyag dang pos
 rdo rje dbyug pa 'dzin pa / khyad par du rdo rje la
 sogs pa'i phyag mtshan rnams kyang rdo rje dbyug pa
 lta bu'o // 'og nas 'chad pa rnams kyang de ltar shes
 par bya'o //

2.2.3 byang du rdo rje gtsug tor dmar po dmar po dang
 ljang gu'i zhal lo // padma dmar pos mtshan pa'i phyag
 go //

- 2.2.4 lhor rdo rje 'khyil ba ljang gu ni ljang gu dang dkar
po dang ser po'i zhal lo // sna tshogs rdo rjes mtshan
pa'i phyag go //
- 2.2.5 mer rdo rje gnod sbyin du ba'i mdog du ba'i mdog¹²
dang ser po dang ljang gu'i zhal lo // lcags kyu 'dzin
pa'o //
- 2.2.6 srin por rdo rje bdud¹³ rtsi dmar po dmar po dang / ser
po dang ljang gu'i zhal lo // dgra sta 'dzin pa'o //
- 2.2.7 rlung du nag po chen po sngon po dang ser po dang
ljang gu'i zhal tri shūl¹⁴ 'dzin pa'o //
- 2.2.8 dbang ldan du rdo rje 'jigs su rung ba nag po mi g'yo¹⁵
ba nag po dang ser po dang ljang gu'i zhal ral gri
'dzin pa'o //
- 2.3 rdo rje dbyug pa (134, 1) la sogs pa brgyad po 'di
rnams ni rim pa ji ltar¹⁶ gzhin rje mthar byed dang
shes rab mthar byed dang padma mthar byed dang
bgegs mthar byed dang 'dod pa'i rgyal po dang / dbyug
pa sngon po dang stobs po che dang mi g'yo ba rnams
kyi ming gzhan no //
- 2.4.1 steng du gtsug tor 'khor los sgyur ba dkar po dkar¹⁷
dang sngon po dang ljang gu'i zhal 'khor lo 'dzin pa'o //
- 2.4.2 'og tu rdo rje sa 'og gnod mdzes kyi ming rnam grangs
can sngon po sngon po¹⁸ dang ser po dang ljang gu'i
zhal rol pa dang bcas pa'i rdo rje gtun shing 'dzin
pa'o // 'di'i phyag g'yon¹⁹ gnyis kyis klu'i zhags pa sdigs
mdzub dang bcas pa dang khaṭvāṃga'o //

- 2.5 rdo rje dbyug pa la sogs pa'i khro²⁰ bo 'di rnam ni
 phyag mtshan gyi gtso po dang thod pas mtshan pa'i
 phyag gnyis kyis rang dang mtshungs pa'i yum dang
 mnyam par sbyor ba'o // dbu skra dmar ser 'bar zhin
 gyen du 'khyil ba rang rang gi rigs kyi bdag pos cod
 pan mdzes par rgyan²¹ pa smin ma g'yo ba²² bcas pa'i
 khro gnyer can mche ba gtsigs pa'i zhal re re la spyang
 gsum gsum dang ldan pa dmar zhing zlum pa mi ngo'i
 phreng ba dang phyag rgya lnga²³ la sogs pa dang klu'i
 rgyal po brgyad kyis brgyan pa / sna tshogs padma
 dang nyi ma la gnas pa'i phyogs skyong brgyad dang
 steng du tshangs pa dang 'og tu thags²⁴ bzangs ris rnam
 la g'yas brkyang gis mnan nas bzhugs pa rang gi rigs
 kyi bdag pos dbu brgyan pa ste / ji ltar 'jam pa'i rdo
 rje'i dkyil 'khor gyi rtsibs bcu pa'i bsrung ba'i²⁵ 'khor
 lor bshad pa bzhin no //
- 3.1 bcom ldan 'das rdo rje hūṃ mdzad kyi thugs ka'i sa
 bon ni hūṃ ngo //
- 3.2 om kha vajradhr̥k vajrahūṃkāra vajra hūṃ phaṭ ces
 bya ba ni rdo rje hūṃ mdzad kyi snying po'i sngags
 so //
- 3.3 las thams cad pa'i sngags ni om vajrakuṇḍali vajra
 hūṃ phaṭ²⁶ ces bya ba'o //
- 4.1 yang shar la sogs pa'i phyogs dang phyogs mtshams
 dang steng dang 'og (134,2) tu sna tshogs padma dang
 nyi ma'i gdan rnam la g'yas skor gyis gshin rje

mthar byed la sogs pa'i khro bo bcu'o// 'di rnams kyi
gnas dang sku mdog la sogs pa *bsdus pa'i rim par*
gsungs pa'i dkyil 'khor ji lta ba bzhin no// yang na
'jam pa'i rdo rje'i bsrung ba'i 'khor lo'i rtsibs bcu ba
bzhin no// yang na *kun tu kha sbyor* gyi rdo rje sems
dpa'i dkyil 'khor bzhin no//

- 4.2 phyogs 'di gsum ka la yang *om āḥ vighnāntakṛt hum*
zhes bya ba bgegs mthar byed kyi sngags te las thams
cad pa'o//

テキスト校註

- 1 PN *omit* sngon po.
- 2 D gu'i.
- 3 D sdug.
- 4 D 'dril.
- 5 D *inserts* pa.
- 6 D me.
- 7 D dūr ba.
- 8 D po.
- 9 D da'i.
- 10 PN phyag rgyas la.
- 11 D khyad par du.
- 12 PN *omit* du ba'i mdog.
- 13 PN *insert* dus.
- 14 P dri shul.
- 15 D *omits* mi g'yo ba.
- 16 D ji lta bar.
- 17 PN *omit* dkar po.
- 18 PN *omit* sngon po.
- 19 D *omits* g'yon.
- 20 P ba.
- 21 D brgyan.

- 22 D *inserts* dang.
 23 P *omits* lnga.
 24 PN thag.
 25 D pa'i.
 26 D *phaṭ svāhā* | zhes.
 27 D bas.

付 記

本稿は平成7年度文部省科学研究費補助金による国際学術研究「マンダラの理論と実践の比較研究」(研究代表者・立川武蔵, 課題番号05054013)による研究成果の一部である。

略号表

Bhatt.: Bhattacharyya, B.1972(1949) *Niṣpannayogāvalī of Mahāpa-
 ṇḍita Abhayākara Gupta*. G.O.S.No.109. Baroda: Oriental Insti-
 tute.

NPY: *Niṣpannayogāvalī*

TTP: Tibetan Tripiṭaka, the Peking edition (『影印北京版西藏大藏経』
 鈴木学術財団).

VA: *Vajrāvalī-nāma-maṇḍalopāyikā*

引用文献

- 越智淳仁 1968 「隆三世たる hūṃ kāra について」『密教学会報』7:77—73。
 定方 晟 1985 『インド宇宙誌』 春秋社。
 竹前快宏 1968 「金剛吽迦羅成就法と隆三世成就法」『密教学会報』 7:80—78。
 立川武蔵 1987 『曼荼羅の神々』 ありな書房。
 立川武蔵 1993 『完成せるヨーガの環』第19章「金剛界のマンダラ」和訳「宮
 治昭(代表)『インドのパール朝美術の図像学的研究』(平成3・4年度科学研
 究費補助金研究成果報告書), pp.i-xiii。
 立川武蔵 1995 『完成せるヨーガの環』第19章「金剛界のマンダラ」訳註『密
 教図像』14:1—33。
 森 雅秀 1989 「『完成せるヨーガの環』(Niṣpannayogāvalī) 第21章「法界語
 自在マンダラ」訳およびテキスト」『法界マンダラの神々(国立民族学博物館
 研究報告別冊第7号)』(長野泰彦・立川武蔵編) pp.235—282。
 森 雅秀 1990 「パール朝の守護尊・護法尊・財宝神の図像的特徴」『名古屋大
 学古川総合研究資料館報告』 6:69—111。

- 森 雅秀 1991 「十忿怒尊のイメージをめぐる考察」『仏教の受容と変容 3 チベット・ネパール編』(立川武蔵編) 佼成出版社, pp.293—324。
- 森 雅秀 1992 「インド密教における結界法—*Vajrāvalī-nāma-maṇḍalop-āyikā* 和訳(2)」『名古屋大学文学部研究論集』 114:89—109。
- 森 雅秀 1994 「『完成せるヨーガの環』第1章「文殊金剛マンダラ」訳およびテキスト」『高野山大学密教文化研究所紀要』 7:113—142。
- 森 雅秀 1996 「『完成せるヨーガの環』の成立に関する一考察」『密教図像』15 (印刷中)。
- Bhattacharyya, B. 1968a (1958) *The Indian Buddhist Iconography Mainly Based on the Sādhnamālā and Other Cognate Tantric Texts of Rituals*. 2nd ed. Calcutta: K.L.Mukhopadhyay.
- Bhattacharyya, B. 1968b (1925) *Sādhnamālā* (2 vols.). G.O.S.Nos. 26, 41. Baroda: Oriental Institute.
- Bhattacharyya, B. 1972 (1949) *Niṣpannayogāvalī of Mahāpaṇḍita Abhayākara Gupta*. G.O.S. No.109. Baroda: Oriental Institute.
- Gonda, J. 1985 *The Ritual Functions and Significance of Grasses in the Religion of Veda*. Amsterdam: North-Holland Publishing Company.
- IASWR 1975 *Buddhist Sanskrit Manuscripts: A Title List of the Microfilm Collection of the Institute for Advanced Studies of World Religions*. New York: IASWR.
- Lokesh Chandra (reproduced) 1981 *Abhidhānottara-tantra*. Śata-piṭaka Series, Indo-Asian Literatures Vol.263. New Delhi: International Academy of Indian Culture.
- Mallmann, Marie-Térèse de 1964 *Étude iconographique sur Mañjuśrī*. Publications de l'École Française d'Extrême-Orient Vol.55. Paris:École Française d'Extrême-Orient.
- Mallmann, Marie-Térèse de 1975 *Introduction a l'iconographie du tântrisme bouddhique*. Bibliothèque du Centre Recherches sur l'Asie Centrale et la Haute Asie Vol.1. Paris.
- Mitra, D. 1978 *Bronzes from Achutrajpur, Orissa*. Delhi: Agam Kala Prakashan.
- Pan chen blo bzang chos kyi rgyal mtshan 1973 *rDo rje phreng ba'i dkyil 'khor chen po bzhi bcu rtsa gnyis kyi sgrub thab, Rin chen dbang gi rgyal po'i phreng ba*. Pan chen blo bzang chos

kyi rgyal mtshan gsung 'bum, Vol.2. New Delhi.

Saraswati, S.K. 1977 *Tantrayāna Art: An Album*. Calcutta: Asiatic Society.

Snellgrove, D.L. 1959 *The Hevajratāntra: A Critical Study*, 2 parts. London: Oxford University Press.

<キーワード> *Niṣpannayogāvalī*, Abhayākaragupta, Vajrahūmkāra-
maṇḍala